★米国の裏庭に挑戦するイラン＝エリア・マグニア

米海岸から2200キロ。イラン国旗を掲げたタンカー「フォーチュン」に続いて「フォレスト」がベネズエラ海域に入った。これは米国による禁輸措置と脅迫にたいする挑戦であり、イスラム共和国は大声で明確なメッセージを伝えていた。

最初のメッセージが米政府に発出される前、湾岸とアラブの指導者たちがイランの指導部に「米政府はベネズエラに向けたイランのタンカーを停止させる決定をしている」とのメッセージを直接伝えていた。これにたいしイランは受け取ったすべてのメッセージに「5隻のタンカーはベネズエラに航行する。これらタンカーのいずれかが制止されれば、ホルムズ海峡、オマーン湾、または適切とみられるあらゆる場所で対応する」と答えていた。

「これら5隻のタンカー（Clavel、Fortune、Petunia、Forest、Faxul）は、ベネズエラへの石油供給の始まりにすぎない。イランは、タンカーを世界中のどこにでも送る権利を有している。米国による制止は海賊行為と見なされ、直接的な対応を引き起こすことになる」。イランの政策決定者の一人はこうのべ、仲介者を通じて米政府にイランの対応を明らかにした。

「イランはアフリカの角を避ける決定した。最初のタンカーがイードエルフィ（ラマダン終了の大祭）の初日にベネズエラの海域に到着する計画をたてたからだ。その意図は、イスラム共和国が米国の裏庭で米国に挑戦する重要な日を共有し、イランの主要な同盟国の1つに課された制裁を破ることだった。これは（米国の制裁にあっている諸国による）『抵抗の枢軸』へのメッセージであり、イランがいかなる挑戦であろうと、世界中のどこにでも友人や同盟国を捨

て去ることはないというものだった。イランは新たな交戦のルールを課すことで、米国と直接対決している」と情報筋はのべている。

イランは米国からの脅迫に屈せず、5 隻のタンカーにアフリカの角ではなくアデン湾を通ってバブアルマンダブ海峡、スエズ運河、ジブラルタルを経由して大西洋に入るよう指示した。そこは米国が強いプレゼンスと影響力を持っている地域だが、これにより（ベネズエラへの）距離が短くなった。アメリカ海軍の意図が試された。同時にイランは、エスカレーションの兆候が表れたら「抵抗の枢軸」の同盟国が必要に応じてより広い対抗の態勢がとれるように、米国に立ち向かう用意がある旨を同盟国に通知した。

イランの最初のタンカー「フォーチュン」は、5 月 24 日（日）、イードアルフィトル（ラマダン終了の大祭）の初日にカリブ海に到着した。米海軍艦艇が近くにいた。タンカーは 1,000 万バレル以上の石油と希釈剤、それに補修部品を運んでいた。これはベネズエラの８カ所の製油所の故障の修理を始めるためだ。石油に富むベネズエラが将来、自給できるようにする。合法的に選出されたマドゥーロ大統領の打倒をねらった米国の制裁措置により、ベネズエラの製油所が麻痺し、ガソリン不足の原因となっていた。

米国政府に挑戦するイランは、最初のタンカーが制止を受けることなく通過したことを勝利だと考えている。また米国の権威に対するこの挑戦を、精巧な米無人偵察機の撃墜やイラクのアインアルアサド米軍基地への爆撃よりもはるかに重要であると考えている。

「私たちの同盟国は、なぜイランが米国の支配に直接たちむかわないのか不思議に思っていた。実際は、我々はこの日のために準備をしてきた。その助けになったは、米国による制裁だ。それによってこの国は多くのレベルでいやおうなく

自主的になった。今日ではイランとその同盟国はすべてが米国の覇権に立ち向かう強力なイデオロギーと動機を備えており、中東の内外で、米国とその同盟国に立ち向かうために十分に進んだ軍事的および財政的支援を持っている。

第二次世界大戦以来、米国はいまのイランのような覇権への挑戦に直面したことはなかった。特に米国は40年間にわたる制裁と最大の圧力によってイランの能力は鈍っていると考えている。最高指導者のハメネイ師は、すべての同盟国にたいし、彼らへの軍事的および財政的支援を増やし、パレスチナ、レバノン、シリア、イラク、イエメンでのすべてのニーズを満たすつもりだと伝えた。『抵抗の枢軸』は準備が整い、一つの前線として団結した」。消息筋はそうのべている。

ベネズエラはプーチン大統領に助けを求めていた。だがロシアは米国の海岸近くに船を送ることはないと明確に答えた。トランプ大統領が偽の脅威を言い立てて、米国の民感情を団結させる手助けになってしまいかねないからだった。これが、プーチン大統領がベネズエラの要求を拒否しなければならなかった理由だ。これにたいしてイランは最初から求めに応じ、米国に挑戦して、かつてベネズエラから受けた支援に恩返しする機会を得たことに感謝した。２００８年にイランは米国から重い制裁を受けて技術移転を禁止され、自国の製油所修理のために支援を必要としていた。それ以来、イランは11の製油所を建設した。現在さらに３か所を建設中で、ガスの液化技術（GTL）を開発した世界で3番目に重要な国と見なされている。

米国がバグダッドの空港でソレイマニ准将を暗殺してから、イランは米国について新しい交戦規則を制定した。そのメッセージは、敵がイランを攻撃した場合は必ず応答し、攻撃への反撃しないことはありえないという脅しで構成されている。イランには（叩かれたら）もう一方の頬をさしだすつもりはもはやな

く、国益にたいするいかなる攻撃にも対応する特別な措置をとることを決定した（このなかにはシリアも含まれている）。また、イランとその同盟国は、米国政府がイランの利益のあらゆる側面、特にベネズエラに向かう船団への攻撃を決定した場合に備えて、準備のレベルを最大に引き上げた。

イランは直接米国と向き合っておらず、同盟国に代わって仕事をするように求めていない。 「ペルシャ絨毯職人」はその能力と準備が完了する今日まで、４０年間、米国による制裁に耐えてきた。これは、今イランがより厳しく、より困難になることを意味し、それは新議会と新政府の選挙のなかで明らかにされた。トランプ大統領はハッサン・ローハニ大統領がとった路線を悪用し、使い果たした。したがって、イランと米国との間の新たな交渉は非常に困難になる。米国が署名した文書にはまったく信頼がおけないのだ。

2020 年の終わりに米国で政権につくのが共和党であれ民主党であれ、イランが自分から電話をかけて会談を求めと考えるとすれば、何年も待つことになるだろう。交渉を行う価値があるかどうかをイランに証明するのは米国次第だ。

イランはアフガニスタン、パレスチナ、レバノン、シリア、イラク、イエメンに底堅い根っこを植え付けた。それが現在ベネズエラに向かって広がっている。イデオロギーではなく米国の覇権と制裁に対抗する戦略的同盟国としてマドゥーロ大統領を支持するだろう。近い将来、より多くのタンカーが続くと予想される。

イランはトランプ大統領と対立して、大統領選挙の数か月前に彼を対立に誘い込むことを望んでいる。新型コロナ危機への不適切な対処、ロシアとの取引に対する米国の反論、中国と世界保健機関（ＷＨＯ）への攻撃、イランの核協定（JCPOA）の拒否：これらすべてが再選の課題になる可能性がある。これこそイランがトランプをさらに驚かせようとしている理由であり、彼の中東政策がヨーロッパと

中東の両方で米国とその同盟国の安全、ひいては世界の安全を危うくしていることを示すためなのである。

（グローバル・リサーチ 5 月 26 日）

◇エリア・マグニア＝国際ジャーナリスト・クウェート新聞アル・ライ特派員